

為綠娘白波初編

倭名恒尊文作
一色所芳哉画

青盛堂梓



恒尊
一色





荷緑娘白浪

るる文作母方楽楽

みちる

初編

上快

かき吉





名
色
美
初編下



薄
縹

初編上

青
簾
巻
袴



娘白浪
笄初編
上之巻



西橋
唐申塚

華硯万福大吉利市

唐申塚

此稗史、友人松林亭伯口大人が每席定連の耳を
 飲化し、何処ゆても大入りある。笠松鬼神の講談を其の假用
 此のりあり、余札上の綴糸多くて、寸暇を得ざれば唯一度、彼名談をさ
 らす。要するに、政大緊筋達成共大人小口授せしと、思ふ計り、小二年余
 空く過す。其中、小書肆の促最繁く、註方案上、煩杖つくと、考る間、ある玉の
 歳の始の賣物よ。仕上とせんと、不草小筆の笠松敢取初編一帙、かき、木と男女
 一對、緑林白波の題号をあるて、幼童方の御待、ひて、注約速を、た、入、ト
 り、此、空、附、會、と、を、ぬ

辰春吉旦

假名垣首文記

辰春日

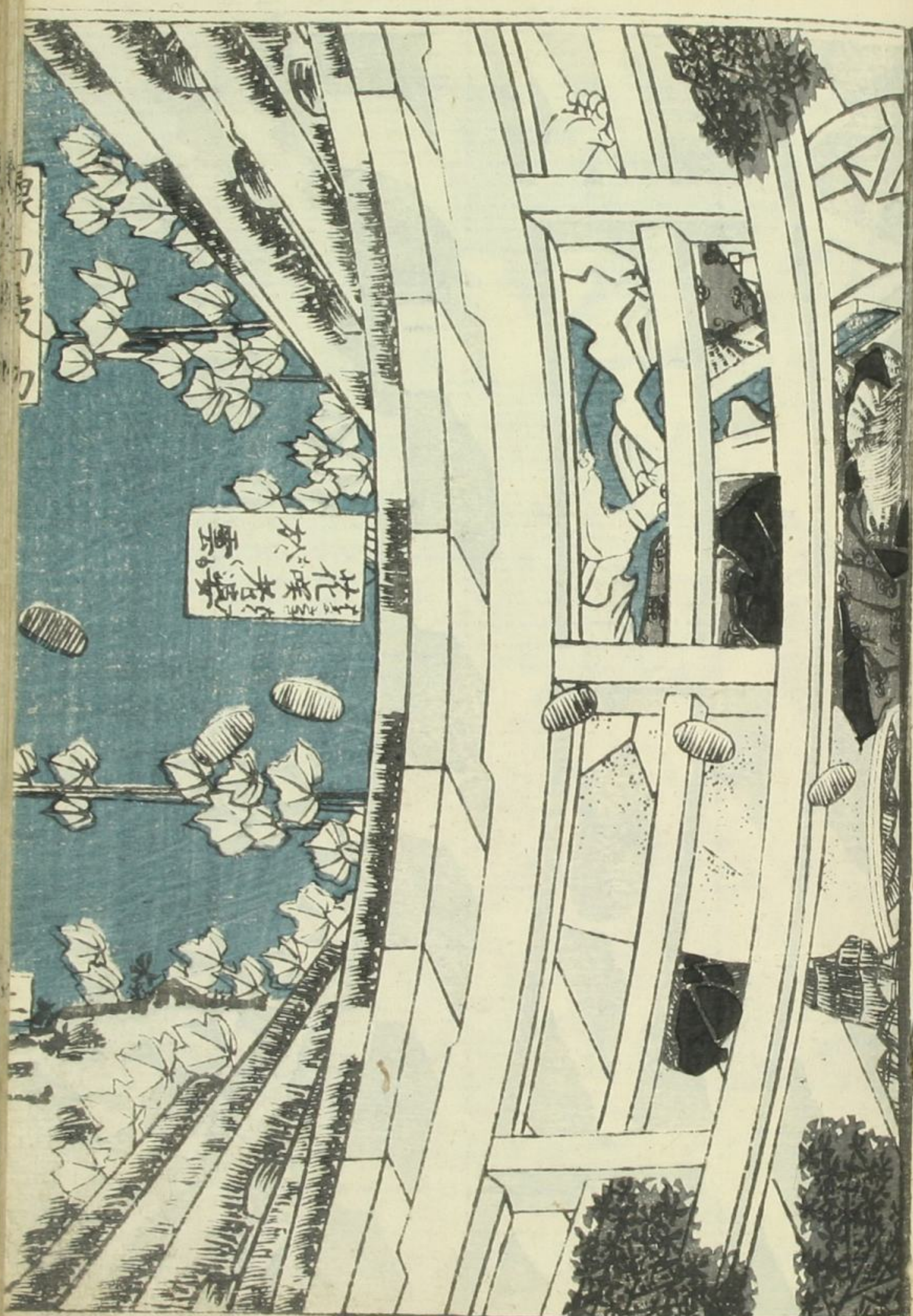


むらえ

あゝあゝ

初之





娘白波初

山賊首領
柿木林赤捕

女盜賊
物見河松



夏目波切

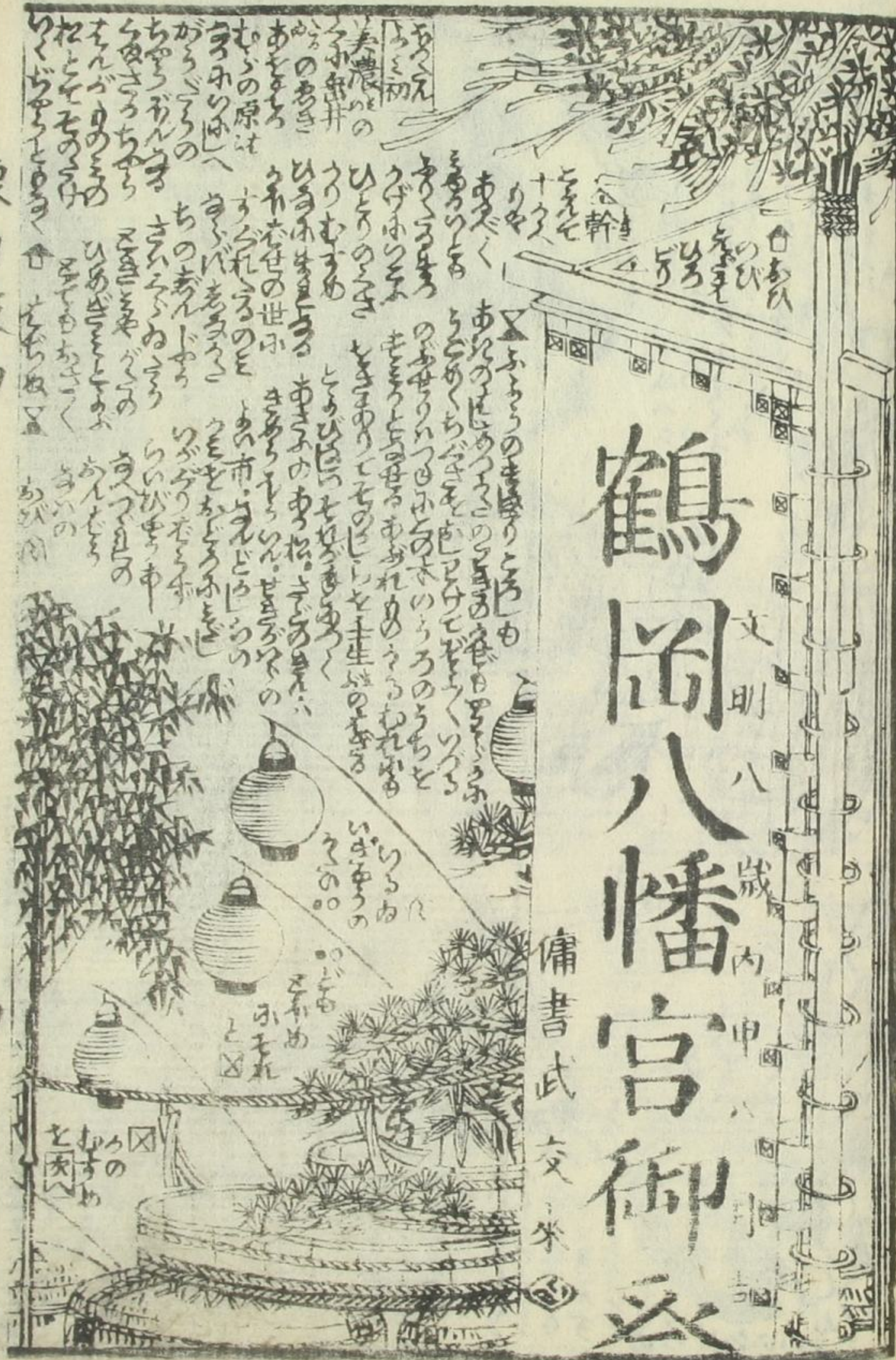
如白法初



橋中もり
みやりの
柳井上

牛若小僧
後小僧治

歌妓於松



鶴岡八幡宮御

備書武交米

おぼく
あまのこ
うげり
ひよりの
うりむすめ
ひるみま
なれおの世の
すられの
さくばあ
ちのあんど
まいたろ
まいたろ
あつた
あつた
あつた

夏月支切



長目友刀

村藤青



如白洲

熊坂 松見 之松

○

○

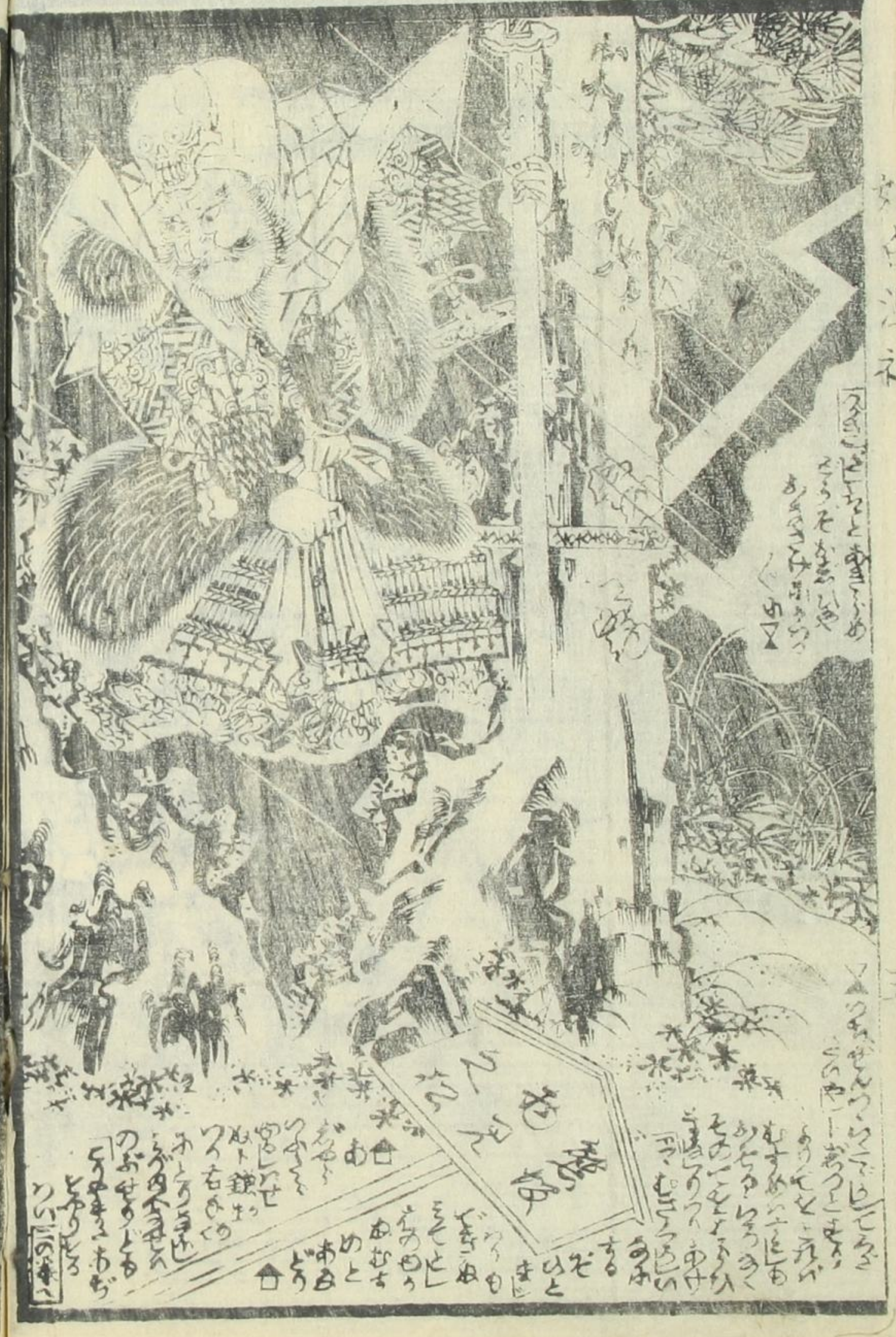


良日...

四の五のまーお

...

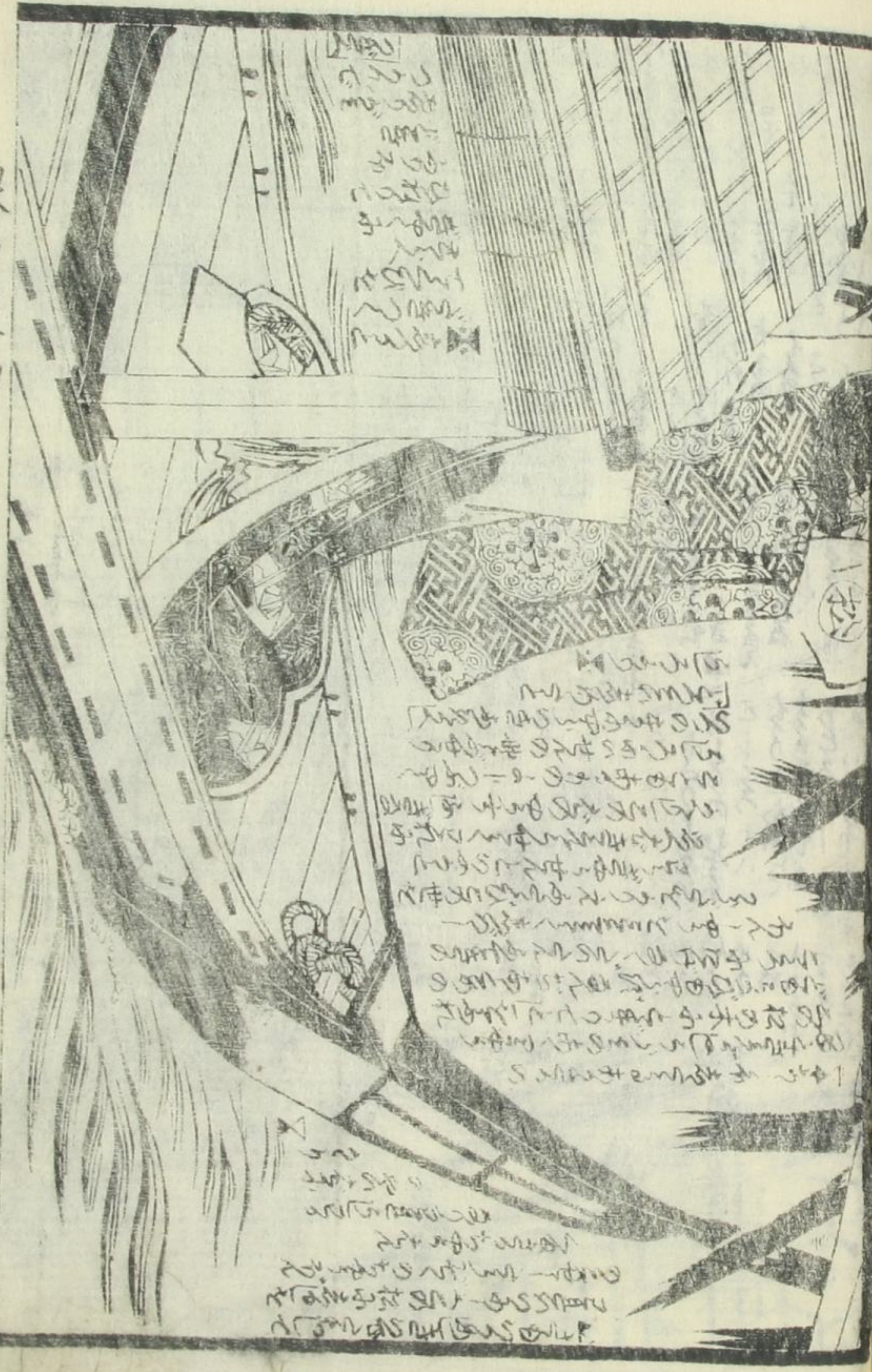
...



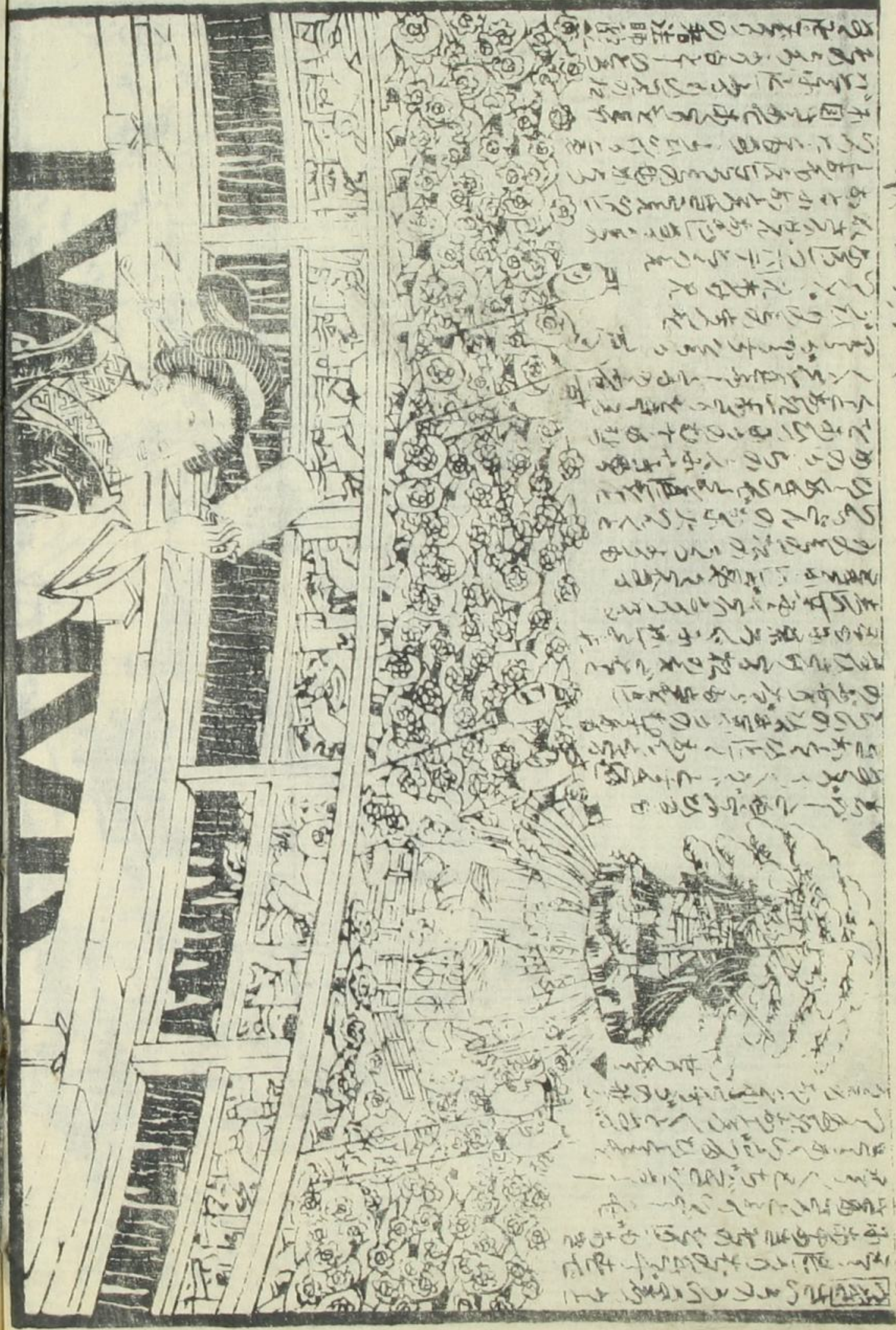
...

...

良日支刀



Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or a list of items related to the illustration.



Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or a list of items related to the illustration.



万葉
 びんぼうの根
 つくねはもろや
 ころもかかると目
 さぬあねあひの
 うちあかふとり
 かのわのおまろ
 すこれとおひく
 うれさきしつせ
 つるがなる八まん
 さのまのふま
 さのまのふま
 さのまのふま

びんぼう

あせんちや
 まのあま
 大すちとらね

良白支切

びんぼうの根
 つくねはもろや
 ころもかかると目
 さぬあねあひの
 うちあかふとり
 かのわのおまろ
 すこれとおひく
 うれさきしつせ
 つるがなる八まん
 さのまのふま
 さのまのふま
 さのまのふま

びんぼうの根
 つくねはもろや
 ころもかかると目
 さぬあねあひの
 うちあかふとり
 かのわのおまろ
 すこれとおひく
 うれさきしつせ
 つるがなる八まん
 さのまのふま
 さのまのふま
 さのまのふま



びんぼうの根
 つくねはもろや
 ころもかかると目
 さぬあねあひの
 うちあかふとり
 かのわのおまろ
 すこれとおひく
 うれさきしつせ
 つるがなる八まん
 さのまのふま
 さのまのふま
 さのまのふま

あせんちや
 まのあま
 大すちとらね

あせんちや
 まのあま
 大すちとらね

びんぼうの根
 つくねはもろや
 ころもかかると目
 さぬあねあひの
 うちあかふとり
 かのわのおまろ
 すこれとおひく
 うれさきしつせ
 つるがなる八まん
 さのまのふま
 さのまのふま
 さのまのふま

あせんちや
 まのあま
 大すちとらね

あせんちや
 まのあま
 大すちとらね

相方位敷定

本國堂出張

易相

本國堂出張



水山

如台流初

兵書



あつちろ
まきまき
くちごも
きんぎょ
年松の
あつちろ
あつちろ
あつちろ
あつちろ



あつちろ
まきまき
くちごも
きんぎょ
年松の
あつちろ
あつちろ
あつちろ
あつちろ

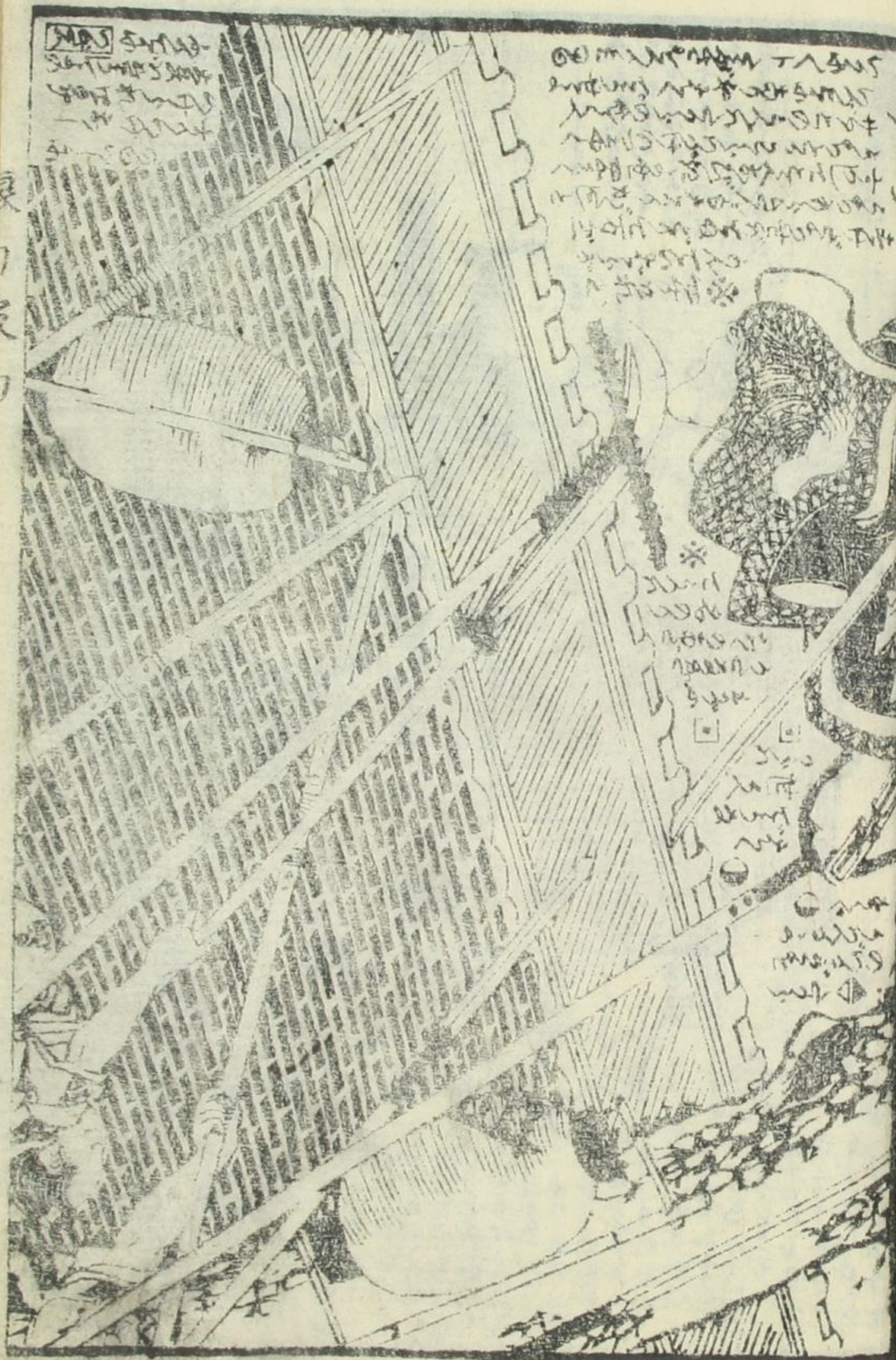
あつちろ
まきまき
くちごも
きんぎょ
年松の
あつちろ
あつちろ
あつちろ
あつちろ

良日支刀



女台泥

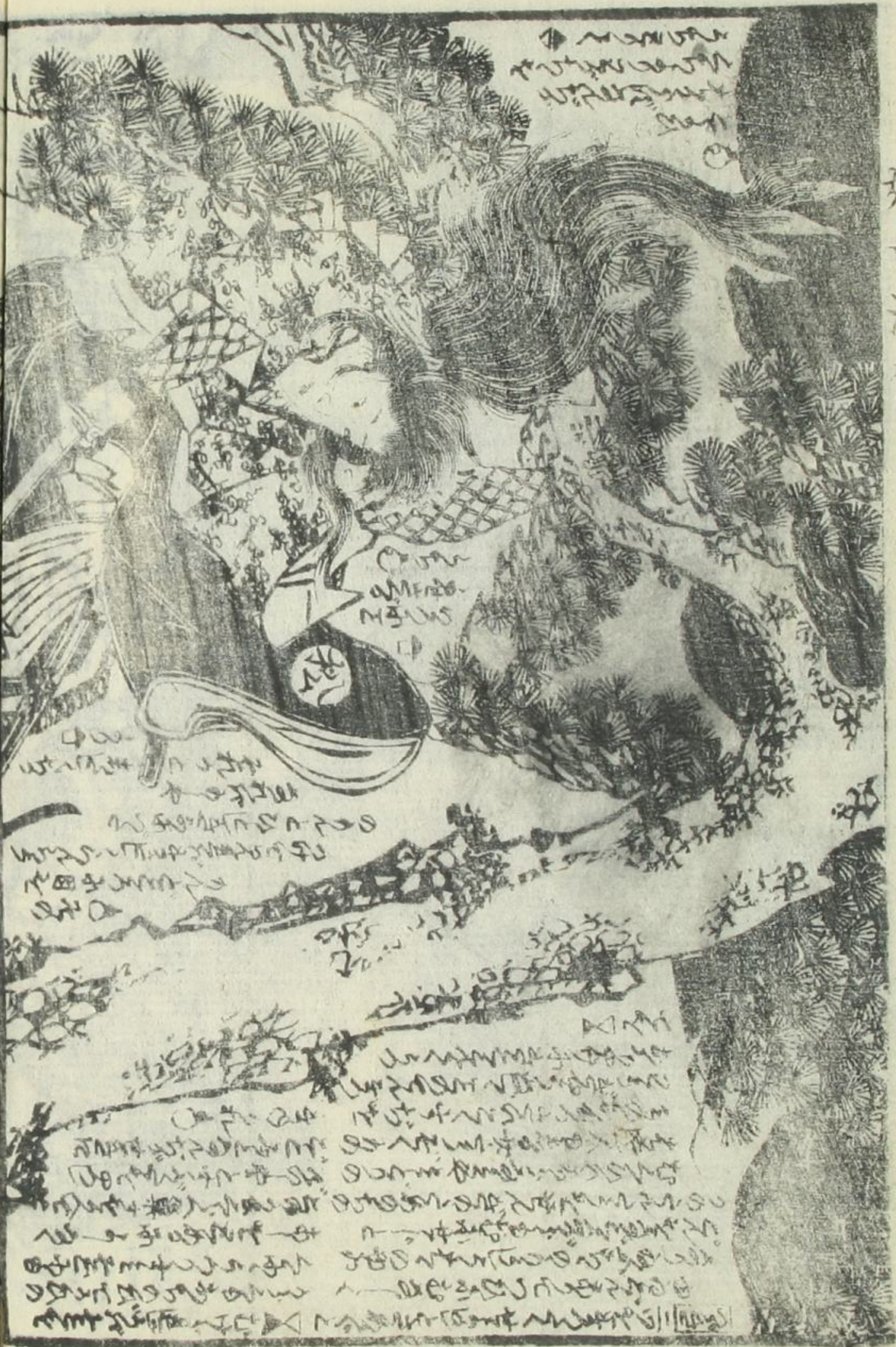
十一



Handwritten text in the upper left corner of the left page, likely a title or chapter heading.

Handwritten text in the upper right corner of the left page, possibly a descriptive label or a short passage.

Handwritten text in the middle section of the left page, interspersed with the illustration.



Handwritten text in the upper right corner of the right page, likely a title or chapter heading.

Handwritten text in the middle section of the right page, interspersed with the illustration.

Handwritten text in the lower section of the right page, possibly a concluding passage or a note.

Vertical handwritten text on the right edge of the right page, likely a page number or a reference.



夏目長刀

仲の所
ひとろ宛
さけて大門の
うらみのきり
ひとろのきり
ふまふまうつち
まきりうやん
ちまのきり
あちちとるあ
じろ七人

あちちとるあ
じろ七人

あちちとるあ
じろ七人



夏目長刀

あちちとるあ
じろ七人

あちちとるあ
じろ七人

あちちとるあ
じろ七人

魚目文作

この魚目文作は

ついでに

さしお

てん

てん

てん

てん

てん

てん

てん

てん

てん

てん

てん

てん

てん

てん

此武士の姓名
第二編の開場に出せ

てん

てん

てん

てん

てん

てん

てん

てん

てん

てん

てん

てん

てん

てん

てん

女芳楽画

備書

天来

後九



為み

娘志波

武編上

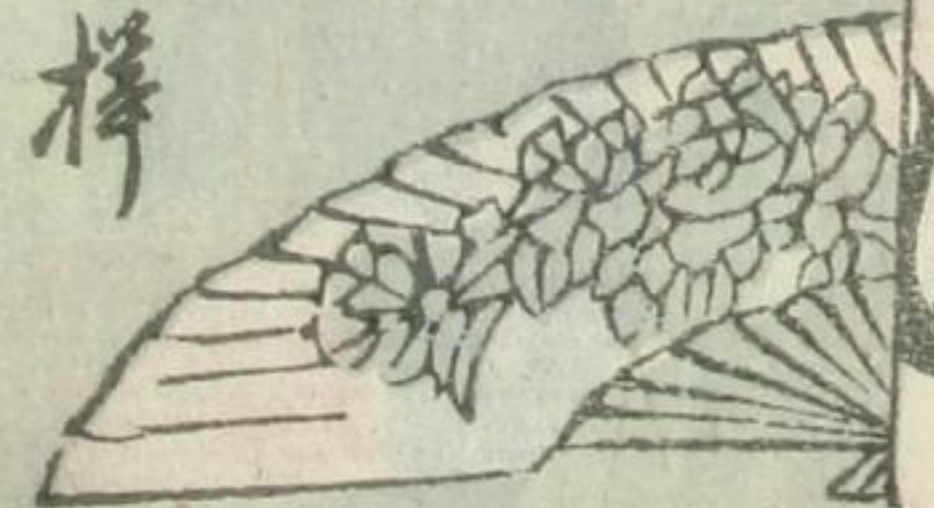
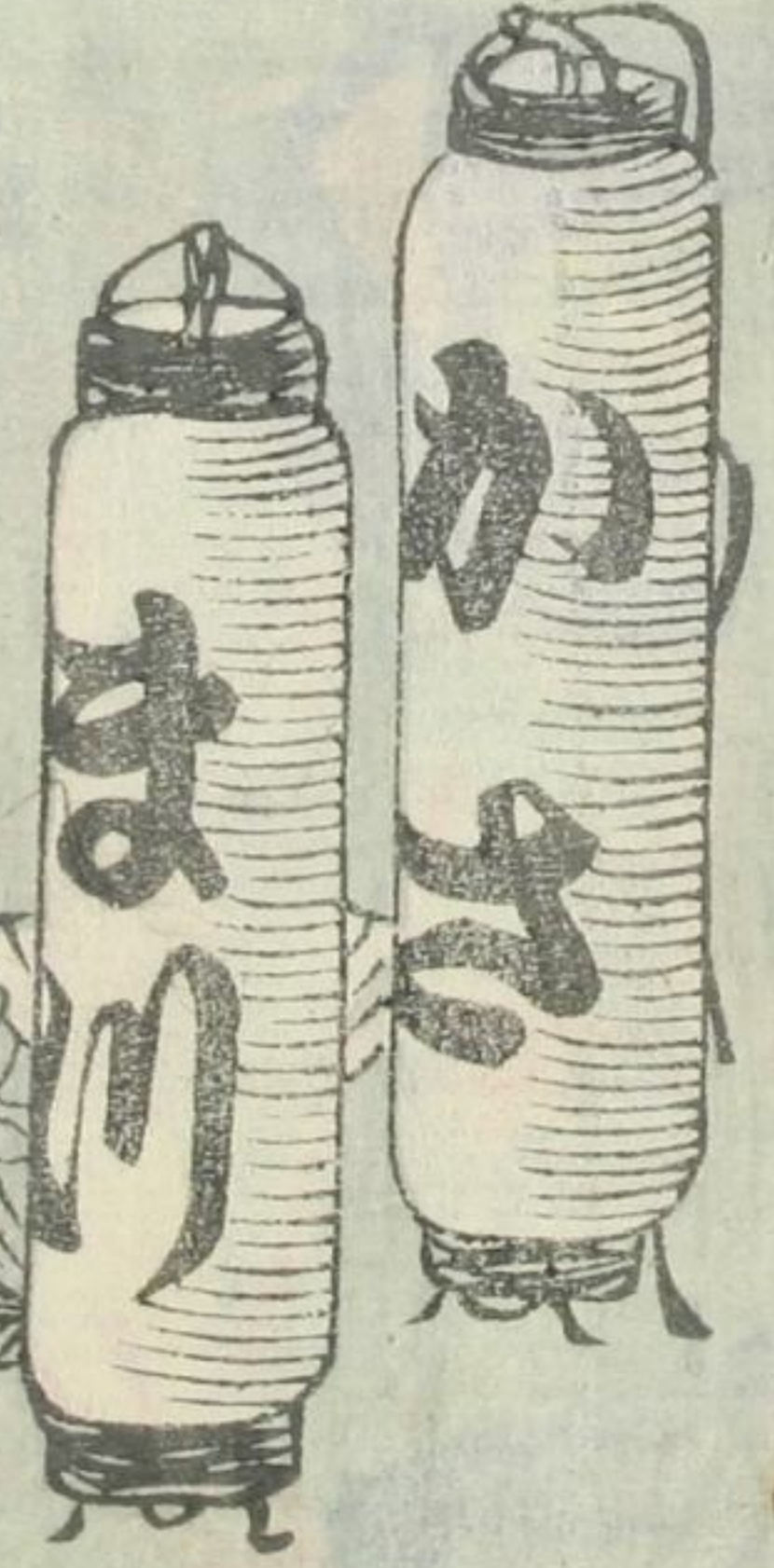
ろあんき

よし

戊辰の

青盛

岩様





薄

緑

切手酒

芳酒

香梅

甘芳酒

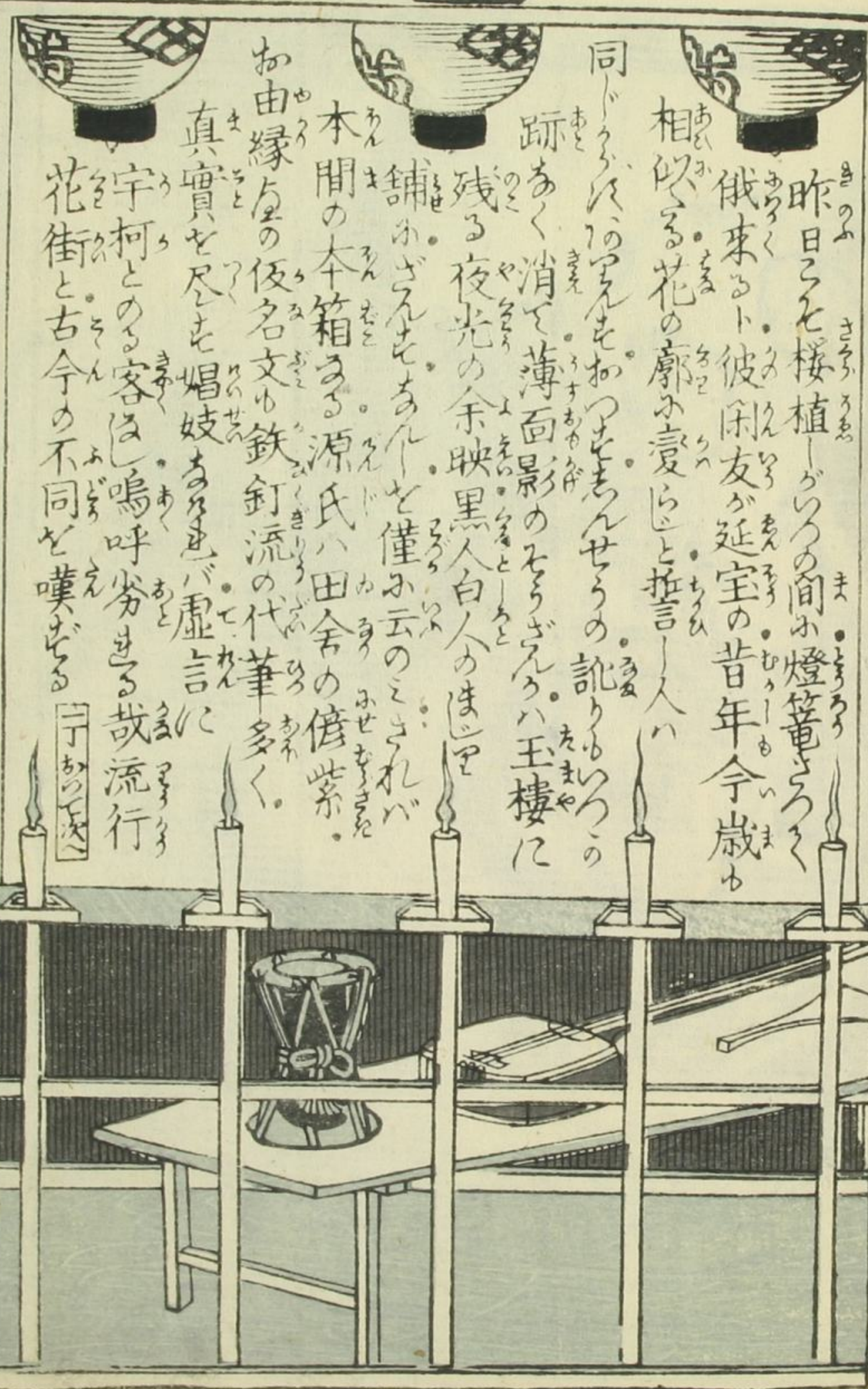
戌辰

香梅

文梅

二編下

二編上



昨日こそ接植まの間の燈籠とうろうをろうく
 俄来ると彼閑友が延宝の昔年今歳いまに
 相似る花の廓の衰らじと誓言ちかひ入いり
 同どうくくはの言をおつとせんせうの訛まごりもいつの
 跡あとあく消きえて薄うす面影おもかげのそらざんらハ玉樓たまろうに
 残のこる夜光やみつの余映よえい黒人くろにん白人はくにんのほじや
 舗ほふざんをさるを僅わずかふ云いふのこされば
 本間ほんまの本箱ほんばこまる源氏げんじハ田舎いんやの傍そば紫むらし
 お由縁おゆゑんの仮名文かみなぶり鉄釘てつてい流りゅうの代筆だいひつ多く
 眞實まことを尽つくすを娼妓ちやうぎをさるを虚言うそに
 宇柯うかとの客きやくは嗚呼ああ劣ある故流行ゆかり
 花街はなまちと古今ここんの不同ふたがひを嘆なげかざる
 丁ちやうあつて

良白皮二



むまめ
 走はる波なみ
 ころんと
 か南みなみの地ぢ
 より歳とし志し

青空寺
 か吉板

英丸寺

王盛遊

娘白皮



木盤常遊女



松木
此ささき
但槃像
阿松

純白狐



長生妓院
不老大門
春秋
全盛
日月
遅々

強盗柿木林示輔

娘白浪
善平孝
壽權
桂馬
高飛

哥妓
於梅



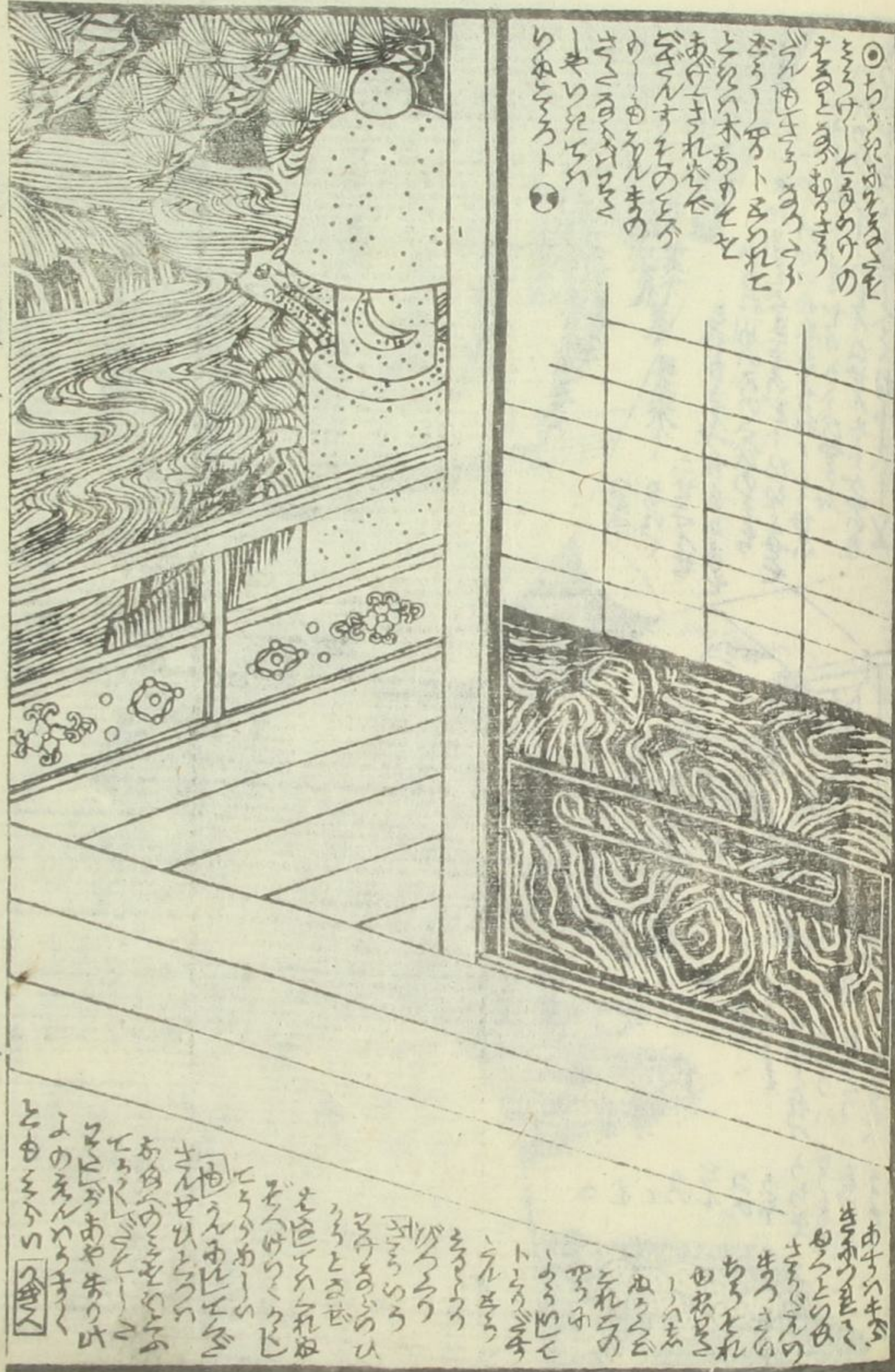
以前の女
やうきを
うらが

三つあまの
白波の女
その胸のあま
うら

こころを
おぼしたるせめて
うらみまはせ
うらみのこころ
うらみまはせ
うらみまはせ

うらみまはせ
うらみまはせ
うらみまはせ
うらみまはせ
うらみまはせ

うらみまはせ
うらみまはせ
うらみまはせ
うらみまはせ
うらみまはせ



こころを
おぼしたるせめて
うらみまはせ
うらみのこころ
うらみまはせ
うらみまはせ

うらみまはせ
うらみまはせ
うらみまはせ
うらみまはせ
うらみまはせ

○作者曾文伏て看官告奉る此きり
去る更の秋梓客青盛堂の注文を

初二の編稿成し初編
の草豪画工の手
失りて再安ふ月を
経て其歳の暮月
稿を脱し技訂

類火のひ初二の稿灰焼と
然と虫梓客又思を起て再三の案を
とふ依て去し及の春初二三と三性
終りて更らせし其暮の出火り
画者芳樂のト居類焼せしより
二編の稿と灰とを存り莫遮初編ハ



亡以梓客と勞せ作者
急之嗚呼此編如
何之れを再々豪と
編を促さるの火
可止に
上梓
其
終はて
可止に



一年と過し中促盛夜大分別あり
倍々拙き事云へくもつらば刺成て後悔さるる六
口の菖蒲十日の菊今更せんを志しむ四方の
看官後編の脚色を待たむ此編の拙作を捨
てて更らるらんのみを希ふ



トヒヒ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ

ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ



ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ

ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ

ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ
ウチ



あまの
うき
あまの
うき
あまの
うき

あまの
うき
あまの
うき
あまの
うき

あまの
うき
あまの
うき
あまの
うき

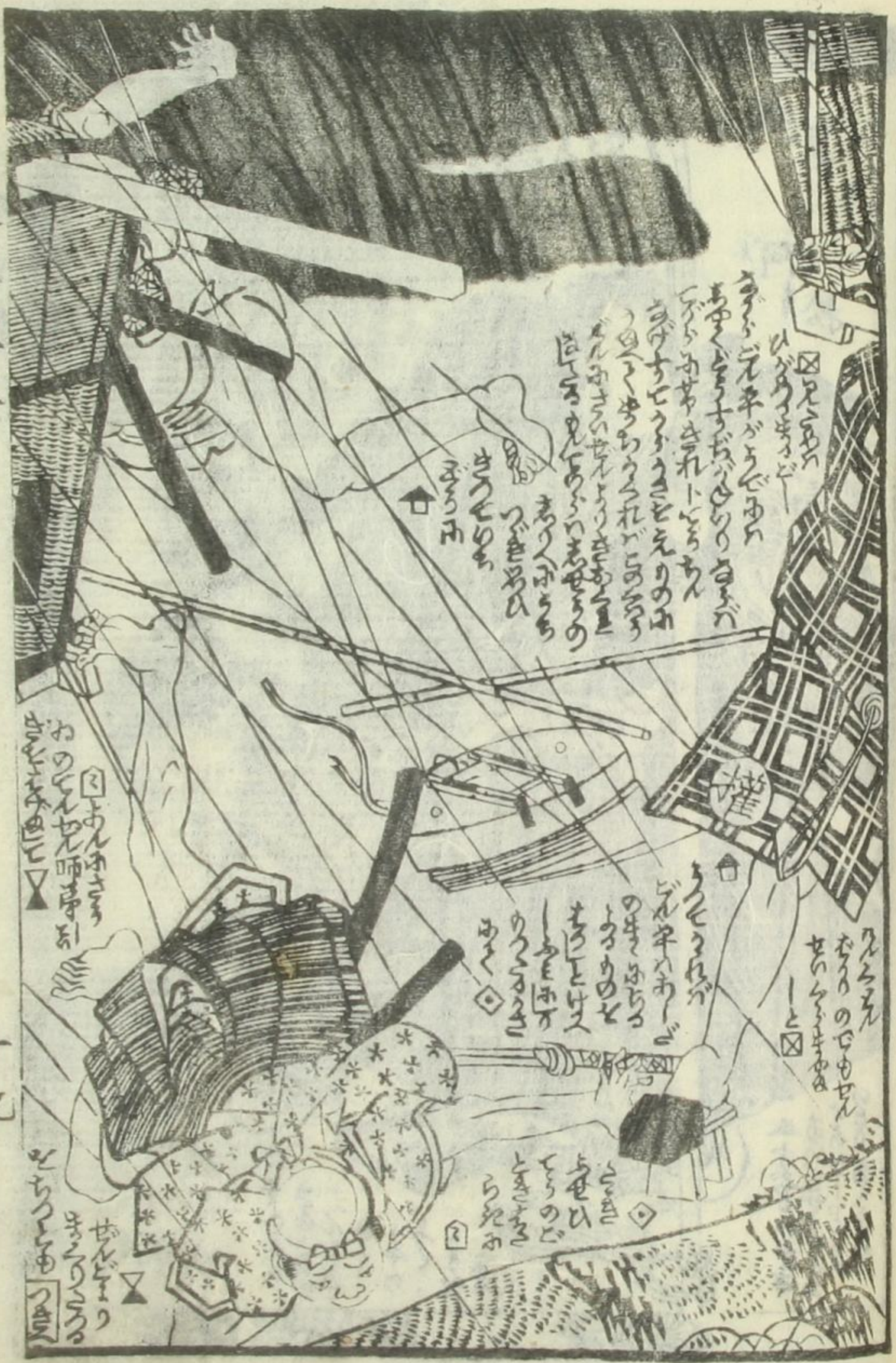


あまの
うき
あまの
うき
あまの
うき

あまの
うき
あまの
うき
あまの
うき

あまの
うき
あまの
うき
あまの
うき

娘白波二



娘白波二

為綠

心屯

免

本娘

假名垣專文作

一畫高十寸實圖

青盛中

素構



竹筴

編